

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は 109 ~ 110 円台で落ち着いた動きか

[8月2日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		7月26日~7月30日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	110.47	110.58(26)	109.36(30)	109.58	-0.97
ユーロ・ドル	1.1777	1.1894(30)	1.1763(26)	1.1878	+0.0107
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
		終値	前週末比	終値	前週末比
日経平均株価	27,283.59	-264.41		日本10年債利回り	0.021 +0.003
ダウ平均株価	35,084.53	+22.98		米10年債利回り	1.269 -0.007
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 2日 中国7月財新製造業購買担当景気指数
独6月小売売上高指数
スイス7月消費者物価指数、スイス6月小売売上高
独7月製造業PMI確報値
ユーロ圏7月製造業PMI確報値
英7月製造業PMI確報値
米7月製造業PMI確報値
米7月ISM製造業景況指数、米6月建設支出
- 3日 豪6月住宅建設許可件数
豪中銀(RBA)政策金利
ユーロ圏6月生産者物価指数
米6月製造業受注
- 4日 NZ第2四半期雇用統計
豪6月小売売上高
独7月非製造業PMI確報値
ユーロ圏7月非製造業PMI確報値
英7月非製造業PMI確報値
ユーロ圏6月小売売上高指数
米7月ADP雇用統計
米7月サービス業PMI確報値
米7月ISM非製造業景況指数
- 5日 豪6月貿易収支
独6月製造業受注指数
英中銀(BOE)政策金利
米新規失業保険申請件数、米6月貿易収支
カナダ6月貿易収支
- 6日 日本6月勤労者世帯家計調査
日本6月景気動向指数速報値
独6月鉱工業生産指数
米7月雇用統計
カナダ7月雇用統計
カナダ7月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】新型コロナウイルスの感染再拡大により、リスク回避のドル買い円
買いの動きとなれば、ドル円は大きく動きにくくなる。国内では新型コロナの感染再拡
大が続いており、株安、円買いに傾きやすい状況が継続して、ドル円は109~110

円台を中心に上値の重い動きが続くとした。

【F O M Cは無難に通過】

米連邦公開市場委員会（F O M C）では、大規模な金融緩和の維持を決定した。ゼロ金利政策や量的緩和策に変更はなかった。声明文では国債などの資産購入については「さらなる著しい進展があるまで継続する」としている。また、インフレが一時的なものであるとする従来の見解を踏襲した。

パウエル議長は記者会見で、今後の複数回の会合で、経済状況を評価して、量的緩和の縮小（テーパリング）に関する議論を進める意向を表明した。また、テーパリングに動く時期については今後の経済データ次第で変動すると述べた。国債と住宅ローン担保証券（M B S）の購入額を減らすのは同じタイミングで行うのが適切との認識を示した。

F O M C声明文では、「経済はF R Bが掲げる雇用や物価の目標に向けて前進を見せた」という文言が新たに盛り込まれた。新型コロナウイルスの感染再拡大や足元の物価上昇がそれほど景気への悪影響を与えないとの認識を持っている可能性がある。

今回、テーパリング開始時期などへのヒントは見られなかった。ただ、市場参加者の間では、8月のジャクソンホール会合や9月のF O M Cでテーパリング開始時期を示唆、11月のF O M Cで状況を判断して、12月のF O M Cで開始時期を明確にして、来年1月に開始するといった見方も出てきている。

米10年債利回りはこのところ、1.23～1.29%前後で落ち着いた動きを見せている。8月第1週は2日の米7月ISM製造業景況指数、4日に米7月ADP雇用統計、米7月ISM非製造業景況指数、6日に米7月雇用統計など、注目度の高い経済指標の発表がある。こうした経済指標の結果が良好なものとなるようなら、米長期金利の上昇につながり、ドル円にも支援材料となりそうだ。

ドル円は109～110円台を中心に落ち着いた動きが見込まれる。そうした中、米経済指標の好調さが見られるようだと一段高となる可能性が出てくる。ドル円の目先の予想レンジは、109.00～111.00円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、2日に米7月製造業PMI確報値、米6月建設支出、3日に米6月製造業受注、4日に米7月サービス業PMI確報値、5日に米新規失業保険申請件数、米6月貿易収支、6日に日本6月勤労者世帯家計調査、日本6月景気動向指数速報値などがある。

【ユーロドルはレンジ相場か】

ユーロドルは1.17台半ば付近まで下落した後には上昇に転じている。F O M C前はポジション調整の動きが中心となった。F O M C後は米長期金利の低下もあって、ユーロ買いドル売りの動きに傾き、29日は独7月消費者物価指数速報値の上振れなどがユーロ買いにつながった。

F O M Cを通過した後、1.1900ドルに接近しているものの、戻りの動きも一服するとみられる。欧州中央銀行（ECB）の緩和策が継続している上、ドイツの10年債利回りも低下傾向にあり、ユーロ買いが継続するとは見込みにくい。現在の上昇が一服すると、1.1800～1.1900ドル台を中心とするレンジ相場になるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは1.1750～1.1975ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、2日に中国7月財新製造業購買担当景気指数、独6月小売売上高指数、スイス7月消費者物価指数、スイス6月小売売上高、独7月製造業PMI確報値、ユーロ圏7月製造業PMI確報値、英7月製造業PMI確報値、3日に豪6月住宅建設許可件数、豪中銀（RBA）政策金利、ユーロ圏6月生産者物価指数、4日にNZ第2四半期雇用統計、豪6月小売売上高、独7月非製造業PMI確報値、ユーロ圏7月非製造業PMI確報値、英7月非製造業PMI確報値、ユーロ圏6月小売売上高指数、5日に豪6月貿易収支、独6月製造業受注指数、英中銀（BOE）政策金利、カナダ6月貿易収支、6日に独6月鉱工業生産指数、カナダ7月雇用統

計、カナダ7月 I V E Y 購買部協会指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。